

経営比較分析表（令和3年度決算）

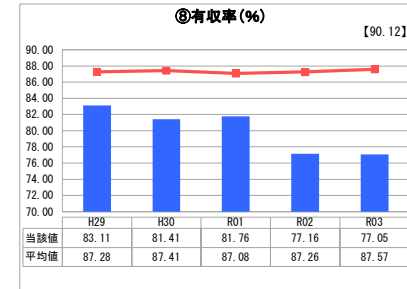
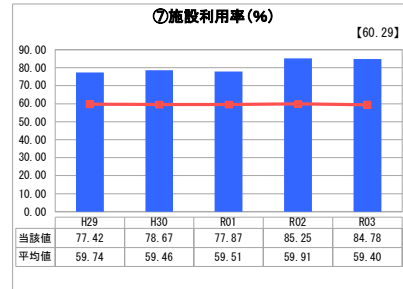
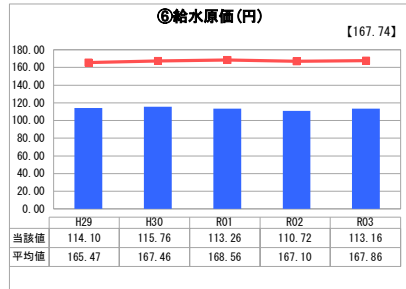
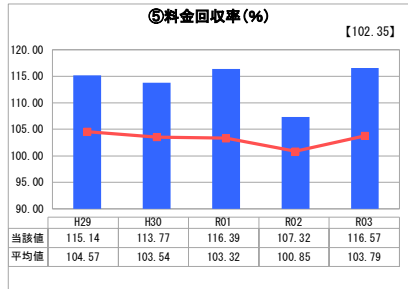
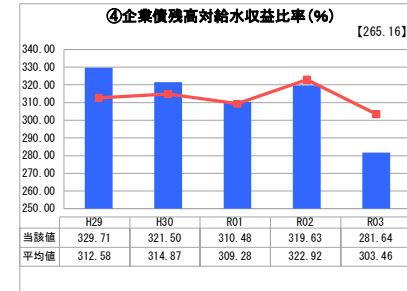
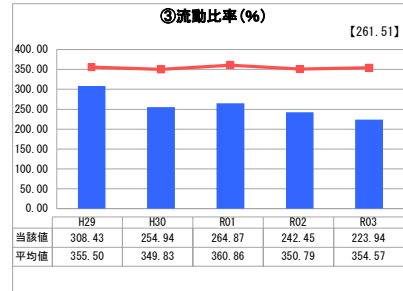
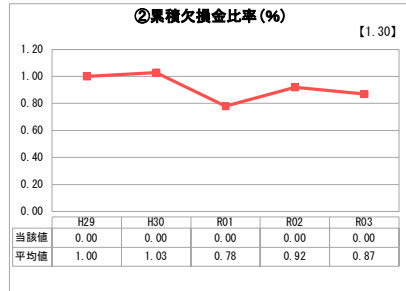
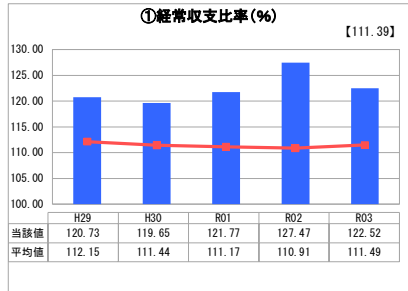
栃木県 下野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.80	97.26	2,585	

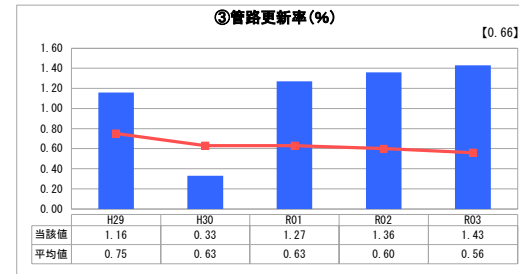
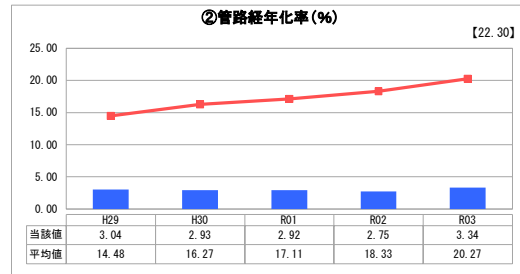
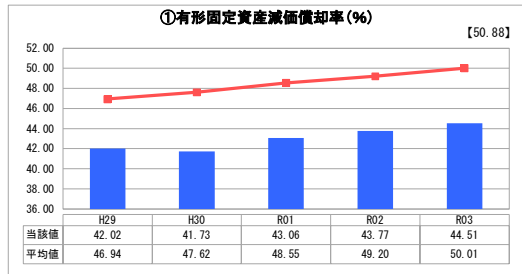
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,202	74.59	807.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
58,287	71.88	810.89

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 1) 経常収支比率(左表1-①)
100%以上であることから、収支は黒字である。また、類似団体平均値と比較しても収益率は高い水準である。
- 2) 流動比率(左表1-③)
100%以上であることから、短期的な債務に対する支払いは確保されている。
- 3) 企業債残高対給水収益比率(左表1-④)
前年度より減少しており、類似団体平均値と比較しても低い状況である。今後も水道事業経営戦略に基づき企業債残高の減少に努める。
- 4) 料金回収率(左表1-⑤)
100%以上であることから、給水に係る費用を給水収益で賄えている。また、類似団体平均値と比較して高い数値であり、健全経営といえる。
- 5) 給水原価(左表1-⑥)
類似団体平均値を大幅に下回っており、有収水量1m³あたりの費用を比較的低く抑えられている。
- 6) 施設利用率(左表1-⑦)
今後は、人口減少を見据え、施設の統廃合やダウンサイジング等を検討していく。
- 7) 有収率(左表1-⑧)
類似団体平均値を大幅に下回っているため、計画的な管路更新や漏水調査等の対策を講じ、有収率の向上を目指す必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 1) 有形固定資産減価償却率(左表2-①)
類似団体平均値と比較して低い数値であるが、計画的な施設の更新を行う必要がある。
- 2) 管路経年率(左表2-②)
類似団体平均値と比較して、耐用年数を超えた管路延長の割合は低いが、今後耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加するため、事業の標準化を図り、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要がある。
- 3) 管路更新率(左表2-③)
アセットマネジメントで設定した実使用年数(60年)での更新のため、毎年度1.6%の実施を目指す。

全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体より比較的高い水準で安定しており、財政状況は良好である。
しかしながら、施設利用率は高いが有収率が低く、収益につながらない状況になっているため、計画的な管路更新や漏水調査等の対策を講じ、有収率の向上を目指す必要がある。
今後も、経営の健全性・効率性をさらに追及し、新水道ビジョンや経営戦略に基づき、計画的に水道事業を推進する。